16 電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

18 輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出しまたは「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

19 マニュアルバージョン

2009 年 10 月　　Rev.A　初版

613-001260 Rev.A 091002

Allied Telesis

ギガビットイーサネット・タップスイッチ

CentreCOM® GS908TPL V2 ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM GS908TPL V2 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、オートネゴシエーション機能付き 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備したギガビットイーサネット・タップスイッチです。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用を意図した設計および製造はされておりません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

1 特長

- ○ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備
- ○ オートネゴシエーション機能をサポート
- ○ ディップスイッチにより簡単に Force MDI の ON/OFF が可能（MDI/MDI-X の固定、自動切替が可能）
- ○ 省エネ機能：省電力モード（常時有効）、ケーブル長（10m 以下・1000Mbps 接続時）
- ○ EAP/BPDU 透過
- ○ Jumbo フレーム対応（9720 Byte 以下、1000Mbps）
- ○ フローコントロール機能をサポート
  - Half Duplex 時：　バックプレッシャー
  - Full Duplex 時：　IEEE 802.3x PAUSE
- ○ AC 電源を内蔵
- ○ 背面のマグネットでスチール面への設置可能
- ○ 最大 4K の MAC アドレスを登録可能

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

http://www.allied-telesis.co.jp/

2 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

- □ CentreCOM GS908TPL V2 本体（1 台）
- □ 製品保証書　（1 枚）
- □ シリアル番号シール（2 枚）
- □ 製品仕様書（英文）（1 枚）
- □ ユーザーマニュアル（本書）

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本装置が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

3 アイコンの説明

アイコン	意 味	説 明
ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

安全のために

必ずお守りください

警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。

分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

雷のときはさわらない

異物は入れない　水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

ふさがない

湿気やほこりの多いところ油煙や湯気のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となります。

設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-120V で動作します。

電圧注意

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。
ケーブル類やプラグの取扱上の注意
- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

傷つけない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。

正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
  （仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所
  （静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

プラグを抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

シンナー類不可

4 各部の名称と機能

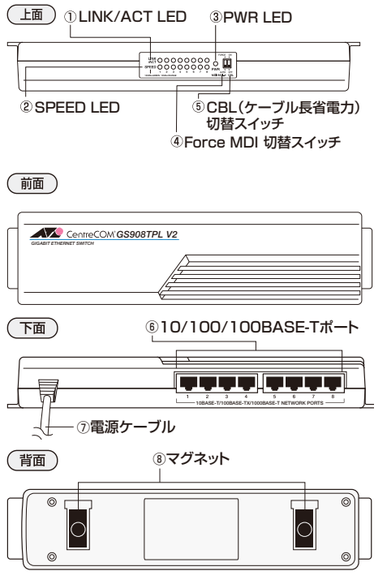

図 1　外観図

① **LINK/ACT LED（緑）**
ポートと接続先機器がリンクした時に点灯します。
また、パケットを送受信しているときに点滅します。

② **SPEED LED（緑 / 橙）**
ポートが 1000Mbps で動作しているときに緑で点灯し、100Mbps で動作しているときに橙で点灯します。10Mbps で動作しているとき、またはポートと接続先の機器がリンクしていないときに消灯します。

③ **PWR LED（緑）**
本体に正常に電源が供給されているときに点灯します。

④ **Force MDI 切替スイッチ**
MDI/MDI-X の設定を、Force MDI（FORCE：上側）、または MDI/MDI-X 自動切替（AUTO：下側）に切り替えるためのスイッチです。デフォルトは AUTO(下側)です。設定は、スイッチを切り替えたあと、本製品の電源を入れ直すと反映されます。
Force MDI を有効にすると、1 ～ 7 番ポートが MDI-X、8 番ポートが MDI で固定されます。この場合、MDI-X ポート同士をストレートケーブルで誤って接続してもリンクアップしないため、ループの発生を未然に防ぐことができます。

⑤ **CBL（ケーブル長省電力）切替スイッチ**
接続された UTP ケーブルの長さを自動的に検出し、消費電力を抑制する機能（Cable length power saving）の有効 / 無効を設定するスイッチです。デフォルトは OFF（下側）です。設定は、スイッチを切り替えたあと、本製品の電源を入れ直すと反映されます。
有効に設定すると、長さ 10m 以下のケーブルで 1000Mbps 接続したときに消費電力が抑制されます。（省電力が作動するケーブル長は、ご使用のケーブル特性により異なります。）

⑥ **10/100/1000BASE-T ポート**
10BASE-T、100BASE-TX、または 1000BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクターです。

⑦ **電源ケーブル**
電源コンセントに接続するためのケーブルです。

⑧ **マグネット**
デスクサイドやスチール製のパーティションなどに設置するマグネットです。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず**「安全のために」**をよくお読みください。

設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

○　背面のマグネットによる壁面への設置

警告　弊社指定以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。
不適切な方法による設置は、火災、故障の原因となります。

警告　水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

注意　製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

○　電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
○　テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
○　傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
○　底部を上にして設置しないでください。
○　充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
○　本体の上にものを置かないでください。
○　直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
○　本製品は屋外ではご使用になれません。
○　コネクターの端子にはさわらないでください。（静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります）。

設置

● マグネットによる取り付け

本製品は、背面のマグネットによって壁面に取り付けることができます。

注意
・取り付けの際は機器およびケーブルの重みにより機器が落下しないように確実に取り付け・設置してください。ケガ・故障の原因になることがあります。

・機器をマグネットで高所に取り付けないでください。落下によるケガ・機器破損の恐れがあります。

・振動・衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下によるケガ・故障の原因となることがあります。

・OA デスク等にマグネットで機器を取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつく恐れがあります。

・マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去される恐れがあります。

・機器をマグネットでパソコンおよびディスプレイなどの電子機器には取り付けないでください。

ヒント
・設置面の状態によってはマグネットの充分な強度を得られないことがあります。

・マグネットの設置面によっては、内部の部品が磁束の影響を受けることで通信に不具合が起こる可能性があります。その際は、マグネット設置面を変更するなどの対応を行ってください。

● 設置方向

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

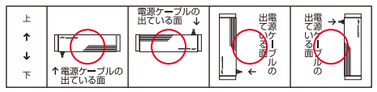

図 2　取り付け可能な方向

警告　必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

6 接続

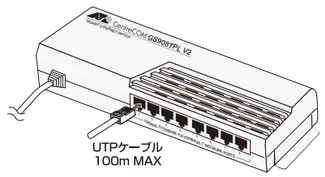

図 3　接続図

ネットワーク機器の接続

● UTP ケーブルの接続

UTP ケーブルを使用して本製品と PC などの端末を接続します。本体の LAN ポート（RJ-45）に UTP ケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

ヒント　UTP ケーブルのコネクター部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTP ケーブルのカテゴリー

10BASE-T 接続の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX 接続の場合はカテゴリー 5 以上、1000BASE-T 接続の場合はエンハンスド・カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

● UTP ケーブルのタイプ

本製品は MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしています。Force MDI 切替スイッチが AUTO（デフォルト）に設定されている場合、接続先の種類（MDI/MDI-X）を意識することなく、どちらのケーブルタイプ（ストレート / クロス）でも使用できます。

Force MDI 切替スイッチを FORCE に設定した場合、本製品は 1 ～ 7 番ポートが MDI-X、8 番ポートが MDI で固定されます。この場合、接続先のポートが MDI の場合は 1 ～ 7 番ポートに、接続先のポートが MDI-X の場合は 8 番ポートに接続することで、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

● UTP ケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは 100m 以内にしてください。

電源の接続（本製品の起動）

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

注意　本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

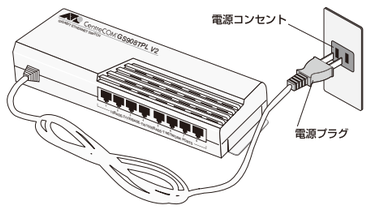

図 4　電源ケーブルの接続

このとき、本体上面の PWR LED（緑）が点灯することを確認してください。
UTP ケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートの LINK/ACT LED（緑）が点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには、電源プラグを抜いてください。

ヒント　本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

7 構成

本製品はスタンドアローンでご使用いただけるほか、下図のとおりカスケード接続でもご使用いただけます。

カスケード接続

本製品は MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしています。Force MDI 切替スイッチが AUTO（デフォルト）に設定されている場合、接続先の種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、どちらのケーブルタイプ（ストレート / クロス）でも使用できます。

Force MDI 切替スイッチを FORCE に設定した場合は、8 番ポートが MDI で固定されます。（MDI-X の接続先ポートとストレートタイプでケーブル接続ができます。）

ヒント
・スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

・カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

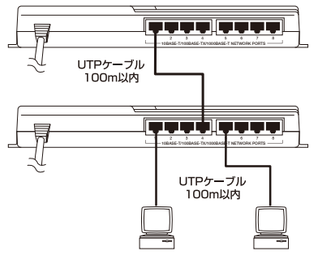

図 5　カスケードの接続例

8 設定

通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器のポートの通信モードを Half Duplex に設定してください。

接続先ポート		GS908TPL V2
		Auto
10M /100M	Half	○
	Full	ー
	Auto	○
1000M	Auto	○

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな？」と思われる前に、以下のことを確認してください。

● PWR LED は点灯していますか？

PWR LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がなく正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

● 機器を停止後、すぐに起動していませんか？

本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

● LINK/ACT LED は点灯していますか？

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

○　接続先機器に電源が入っていることを確認してください。
接続先機器が障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

○　正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

○　ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。
2 つのネットワーク機器の直接リンクを構成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています。

○　ケーブルを他のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
特定のポートが故障している可能性があります。

○　UTP ケーブルに問題がないか確認してください。
ケーブルの不良は外観からは判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。

○　接続先機器の通信モードを確認してください。
本製品のポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

10 製品仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3x Flow Control
適合規格	
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1
EMI 規格	VCCI クラス B
電源部	
定格入力電圧	AC100-120V
入力電圧範囲	AC 90-132V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.2A
最大入力電流（実測値）	0.13A
平均消費電力	5.6W（最大 6.5W）
平均発熱量	20kJ/h（最大 23kJ/h）
環境条件	
動作時温度	0 ～ 40℃
動作時湿度	80% 以下（結露なきこと）
保管時温度	-20 ～ 60℃
保管時湿度	95% 以下（結露なきこと）
外形寸法（突起部含まず）	
	265(W) x 67(D) x 37(H) mm
質量	
	440g
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MAC アドレス登録数	
	4K（最大）
MAC アドレス保持時間（※）	
	300 ～ 600 秒
メモリー容量	
パケットバッファー容量	192 KByte

※　**本製品に登録された MAC アドレスは、MAC アドレスの保持時間が経過するとリセットされます。また、ポートの抜き差しをおこなっても、MAC アドレス保持時間を経過しないと MAC アドレスはリセットされませんのでご注意ください。**

11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口
0120-860332
携帯電話／ PHS からは：045-476-6218
月～金（祝・祭日を除く）　9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 17:00

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター
http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/
0120-860772
携帯電話／ PHS からは：045-476-6203
月～金（祝・祭日を除く）　9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 17:00

13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてかまいません。

○　サポートの依頼日
○　お客様の会社名、ご担当者名
○　ご連絡先
○　ご購入先

● 製品について

製品名（GS908TPL V2）、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード（Rev）などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。

S/N 0047744990805087 Rev A1

図 6　シリアル番号シール（例）

● 設定や LED の点灯状態について

○　LED の点灯状態をお知らせください。

● お問い合わせ内容について

○　どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。

● ネットワーク構成図について

○　ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
○　他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

14 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社(弊社)の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2009 アライドテレシスホールディングス株式会社

15 商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。